

# 同窓会 だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局  
School of Health Sciences, Shinshu University  
第21号 2023年 10月



## — 目次 —

川上由行先生 同窓会会長の挨拶	2
中村宗一郎先生 学長のご挨拶	3
伊澤淳先生 同窓会名誉会長のご挨拶	4
新入教員のご挨拶	5
活動支援報告	5
退職のご挨拶	10
卒業生の声	13
若手優秀論文賞 創設のお知らせ	15
総会記録	18
2022年度事業報告	19
2023年度事業計画	20
同窓会役員	20
編集後記	20

2023  
第21号

## 副会長は「2名」へ、幹事は「若干名」のまま！

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行  
(信州大学名誉教授／医学部特任教授(研究))

発足から20年が経過した保健学科同窓会は、2027年の25周年へ向かって歩み始めました。その歩みの中で、同窓生の学術活動を顕彰する制度が伊澤淳名誉会長(保健学科長)により提起され、保健学科拡大補佐会議、同窓会幹事会、理事会、総会で審議され、「保健学科同窓会若手優秀論文賞」創設が信任されました。そして、第一回授賞式を今年度に挙げる運びです。「応募要項」に従い奮って応募くださるようお願いいたします。「保健学科同窓会若手優秀論文賞」の受賞が、広く同窓生にとって憧れの“ステータス”となっていくように祈念するものです。

さて表題についてです。5月24日開催幹事会での一コマです。副会長1名を2名への変更案件を討議し、理事会、総会への審議に附することになりました。規約改定を伴う事案でした。

ここで、一つの意見が出ました。会長1名、副会長1名、理事16名、監事2名など、具体的に規定しているが、幹事のみ「若干名」です。現状の8名が「数名」ならまだしも、「若干名」は馴染まない。幹事の人数も現状に沿ってスッキリさせ、副会長の人数とセットで改定しましょう、というものでした。

実は、規約原案作成者は私で、敢えて曖昧な「若干名」とした経緯を思い出していました。発足当初の保健学科同窓会は幹事3名で発足し、徐々に増員して現在の8名となりました。私も、「若干名」なのに「8名」には、少し違和感がありました。しかし、幹事のお一人が即座に手元のスマホで検索し、「若干名は、一人から十名までの人数です」と調べてくれた。この一言で、幹事会では「副会長の人数のみ」の改定案に落ち着いたのです。

皆さんはご存じでしたか？ 私は、曖昧な人数を示す「若干名」と「数名」について調べ直してみました。そして、辞書により、また版により、特に「数人」では記載に揺れが見られることを知りました。

先ず「若干名」ですが、手元の小学館国語大辞典(昭和56年発行)に明快な記載がありました。若干の干を分解して「一」と「十」にし、一の若(ごと)く十の若(ごと)し」の意で、「一」から「十」で定まらない数をいう、とあります。現在8名の幹事が今後1~2名増員されてもOKだったのです。

次に「数名」です。辞書ごとの記載に揺れがあります。確実に言えるのは、「若干名」は1名を含むのに対し、「数名」は2人以上の複数名であまり大きくない数の人数であることです。

「数日」の意味を、「2から10に満たない日数」と幅をもたせる新版広辞林(三省堂)がありますが、数日を「4,5日から5,6日」、数年を「4,5年から5,6年」とする一方、数名は「2名以上」と、少ない数を含む記載の大辞典(平凡社)があります。また、新潮国語辞典(新潮社)は数日を5,6日と限定しているのに対し、広辞苑(岩波)では、初版から3版では「数日」「数名」ともに「3,4から5,6」ですが、4版以降の「数日」は「2,3日から5,6日」で、「数名」は「3,4名から5,6名」と、「数名」で幅が狭くなっています。ここで、小学館の新選国語辞典に「若い世代ほど少ない数を指す傾向が強い」とする興味ある記述に気付きました。またこれを補完する内容がNHK放送文化研究所2003年発行の放送研究の調査(6月号)の「ことばのゆれ、短くなる「数日」」に記載されているを見つけました。

平成8年の同様の調査では「数日後」の全年齢層の平均が「3.8日後」という結果が示されているが、平成14年に行った「数日は何日ぐらいのことを言うか」の世論調査で、20代~40代の平均は「2.8~2.9日」で、50代は「3.0日」、60代以上では「3.3日」と、若い人ほど「数日」を短い日数で捉え、60才以上では「数日」の感覚が長くなる傾向が示されている。「数日」と「数日後」で調査した言葉が異なるので、単純比較はできませんが、「数日」は、各年齢層とも段々に短くなってきている、と言えますね。

以上、5月の幹事会で、副会長を1名から2名への改定に際して気になった「若干名」と「数名」について、後期高齢者の身には実に深刻な暑さを、しばし忘れて調べてみました。



## ご挨拶

信州大学 学長 中村 宗一郎

信州大学保健学科同窓会の皆さまにおかれましては健康やかにお過ごしのことと存じます。日頃より一方ならぬご支援、ご協力を頂いておりますこと、まずはこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。

さて、早速ですが、VUCAの時代と呼ばれる、先の見通せない現代社会においては、地方大学が地域の中で果たす「社会貢献」の役割はますます大きく重要になってくるものと考えられます。大学が中心となり、多様な学問分野、業界、世代、そして地域社会に分散している「人」や「知」を結集すれば、そのシナジー効果によって、今までにない大きな新しい価値を生み出すことが可能となります。大学には、「知」の創造だけではなく、社会と深く連携して「知」から派生する新しい価値の共有と定着を果たすことが期待されています。そのような観点から、最近、信州大学は“グレーター・ユニバーシティ・ビジョン”なるものを策定しました。これは、「地域中核・特色ある研究大学」として、長野県だけでなく、長野県を取り巻く県や圏域と広く連携し、地方創生はもとより、わが国の産業振興にも一役買おうというものです。信州大学は、これまで長野県唯一の国立大学として、この地域の教育、研究、社会貢献活動を続けてきました。しかし、人口流出や産業の衰退などの大課題に対し十分に力を発揮できないまま、今日を迎えてきました。この地域のことだけを考えているだけでは解決の糸口を見出すことはできません。県境を越えた広域での連携、具体的な課題解決に向けた研究開発や人材育成、社会貢献活動が求められていると認識しています。これからの信州大学は、“グレーター・ユニバーシティ・ビジョン”の旗印の下に、隣接する市町村や県とも密接に連携し、社会全体を豊かにそして元気にするのできる“真の地域中核大学”として邁進してまいります。様々な局面で、保健学科同窓会の皆さま方との連携をさらに深めてまいりたいと考えていますので、引き続き、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

ところで、現在、信州大学においてもご多分にもれず、チャットGPTに代表される生成AIへの対応が喧しく議論されているところですが、生成AIの登場によって、『自分が書きたい(描きたい)こと』についてキーワード等を使って入力すると、

即座に『こう書く(描く)』とよい』との指南を得ることが可能となりました。日常業務の効率化の観点ではきわめて強力なツールとなり得る反面、個人情報や著作権保護の観点では未知のリスクも想定され、本学でもリス



ク管理のための環境整備を進めているところです。また、成長途上にある若者がこのツールを安易に使うことに慣れてしまうと、批判的思考力や想像(創造)力の低下に繋がることは必至で、教育の現場ではこの歴史的な大きな転換点に対し、世界中の教育者が生成AIへの対応に英知を絞っているところとされています。さらに最近では、エージェントAIと呼ばれる進化型AIが次々に開発されているようです。Baby AGI等の進化型AIを使えば、『目的や願望を入力する』だけで『実現に必要なタスクが列挙され』、その結果『何が起ころか』についての未来までも予測してくれるとのこととです。近い将来、“経営コンサルタント”ですらAIに置き換わる可能性があるとのこととです。「AIが人間の知能を超越する瞬間」のことはシンギュラリティと呼ばれていますが、私たちはまさにプレ・シンギュラリティの時代に生きているということだけは確かなようです。このような状況の中にあって、地域の大学の果たすべき役割、それに対する社会の期待の大きさをヒシヒシと感じている今日この頃です。先の見通せないVUCAの時代において、ウェルビーイングの実現に欠かすことの出来ない学問分野である保健学の重要性はますます増大してくるものと確信しています。今こそ、保健学の存在価値、真価が問われているのだと思われま

す。文末ではございますが、保健学科同窓会の皆さまのご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げます。

## 新任のご挨拶 State-of-the-artを目指して

信州大学医学部保健学科同総会名誉会長 伊澤 淳  
(信州大学医学部 保健学科長／看護学専攻 成人・老年看護学領域 教授)

信州大学医学部保健学科同窓会の皆様、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。令和5年4月1日より保健学科長に就任し、保健学科同窓会名誉会長を拝命いたしました。

令和5年度、保健学科は新たな体制でスタートし、アフターコロナの日常が定着しつつあります。4月に歓迎した新生は、全面的にコロナ禍だった高校3年間から心機一転して松本キャンパスでの大学生活を満喫しています。課外活動が再開し、全国の医療系学生との対外試合などに楽しく参加していることでしょう。

さて、持続可能な開発目標の3「すべての人に健康と福祉を」を我が国において達成すること、そして2035年に健康先進国を実現するために厚生労働省は提言「保健医療2035」を発表しています。保健学科は、これらを実現する保健医療人の育成を使命として、学部および大学院における人材育成に取り組んでいます。また、医師の働き方改革を進めるための制度に基づいた医師のタスク・シフト/シェアにより、看護師ならびにメディカルスタッフは今まで以上に重要な役割を担うと想定されます。医療人のリスクリングやリカレント教育を推進することは医療の質的な向上に不可欠であり、保健学科は大学院教育の充実を重要なミッションとしています。全ての医療人が自身の専門領域を探究し、State-of-the-artを目指すことが大切であり、臨床実践とともに実践を通じた研究活動には、どの1つにも意義がある (Every single research matters) と考えます。

保健学科では保健学科同窓会との協議を重ねて、今年度(令和5年度)より「保健学科同窓会若手優秀論文賞」を創設して、優れた学術論文を表彰する準備を進めています。研究を奨励し、成果の公表とともに荣誉をたたえ、受賞者及び関係者の研究活動を活性化することを趣旨とし、審査により各専攻から原則として1編を選出する予定です。詳しくは本誌面に掲載予定の応募要項をご確認ください。毎年度の保健学科同窓会若手優秀論文賞が、次代を担う医療人の推進力とな

ることを期待しています。

スポーツ界では、日本人選手がワールドクラスで活躍していますが、科学技術や学術研究では、日本は世界の後塵を拝しつつあることが課題となっています。長野県を代表する保健学科の同窓生が、将来、自身の専門領域において国内外のリーダーとなって活躍し、さらに次の世代を育てる医療人に成長するように期待し、引き続き同窓会の皆様によるご支援ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 新入教員のご挨拶

### 看護学専攻 小児・母性看護学領域 佐藤 優香

本年度4月より、看護学専攻小児・母性看護学領域の助教として着任いたしました、佐藤優香（さとうゆか）と申します。

出身は北海道室蘭市です。本学保健学科看護学専攻を卒業後、北海道札幌市の地域周産期母子医療センターである天使病院にて助産師として勤務し、その後はJICA海外協力隊として北アフリカに位置するモロッコ王国にて、母親学級の普及や妊婦健診の質の向上に関わる母子保健活動を行いました。帰国後は、北海道オホーツク海沿岸にある広域紋別病院にて、地域密着型のプライマリーケアを大切にされた周産期活動に携わりました。2021年春から、本学大学院への進学を機に再び信州に戻り、今日に至ります。学部時代から数えると、

松本での生活も7年目となりましたが、四季折々表情を変える山々や街並みの美しさに日々魅了されながら過ごしております。

今回ご縁があり、助産師としての礎を築いてくださった母校で、教育に携わる機会をいただけたことを大変嬉しく思っております。私自身が感じてきた助産師という職業の魅力や可能性を学生の皆さんにお伝えできればと考えております。研究では、「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス&ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」をテーマに、日本での普及と支援体制の構築に向けて取り組んでいく所存です。まだまだ未熟ではありますが、教育研究者として大学や地域社会に貢献できる人材となれるよう、自己研鑽に励んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 活動支援報告

### 新入生交流会

今年は専攻毎に上級生参加で交流会を実施しました。新入生が上級生との交流の中で緊張を解きほぐし、また学年を超えたつながりをつくることができました。4月15日（土）には理学療法学専攻が1～4年生参加のグループミーティングや体操、ドッジボールを、作業療法学専攻は7グループに分かれて松本市内のフォトウォークラリーを行いました。また、4月17日（月）には検査技術科学専攻がクイズ大会と自己紹介を行いました。看護学専攻は4月22日（土）に、上級生企画の松本キャンパススタンプラリーと、新入生企画のゲーム大会を行いました。この交流会が大学生活へのあゆみを一歩進める機会となったようです。



▲看護学専攻



▲検査技術科学専攻



▲理学療法学専攻



▲作業療法学専攻

## 2022年度同窓会からの補助による実習設備の充実

学習環境整備として2022年度同窓会補助により購入させていただいた物品は、看護学専攻にて以下のように活用させていただきました。

### ■成人看護学

#### 1) タブレット（保存用ディスク含む）

実技演習の振り返りに活用しています。以前は2台のビデオカメラを用いて実技の振り返りを行っていましたが、画面は小さく有効な振り返りを行うことが難しい状況でした。今回、5台購入していただけたため、一度に複数の学生が簡便に振り返りを行うことができるようになり学修をより深めることができるようになりました。



#### 2) フットポンプ 3) シリンジポンプ

周術期看護の演習時に使用しています。

臨床現場に近い状況を再現することができるようになりました。また、台数や機器の種類が増えたことにより、学生がさまざまな疑似体験をすることが可能となり、より患者さんの理解を深めることができました。

### ■老年看護学

高齢者体験セット：演習で活用しています。

また、DVDの内容を参考に実習での学生指導に活かしております。



■小児看護学



▲乳児用・小児用ベッド



▲1歳児シミュレーション人形

特別講演

令和5年6月24日(土)

新型コロナウイルス感染症対策を施して、6月24日(土)対面による市民公開講座を実施しました。対面では同窓会会員のみのみ、市民の方はオンラインにて参加いただきました。

「生きてるってシアワセ!」をテーマに、全国骨髄バンク推進連絡協議会副会長・大谷貴子先生によるハイブリッド講演を行いました。学生・教職員・一般市民が出席・視聴し、真摯な質疑が行われました。

信州大学医学部保健学科・保健学科同窓会主催  
市民公開講演会

# 生きてるってシアワセ!

講師 **大谷 貴子 先生**  
全国骨髄バンク推進連絡協議会副会長

日時：令和5年6月24日(土)  
13時00分～15時00分  
(12時40分がも参加可)

場所：オンライン配信(Zoomミーティング)  
《学生会舎：信州大学経済学部第2課202号》

※参加費無料・申込必要  
(保健学科ホームページに申込フォーム掲載予定)

※本講演会には1000名以上の申し込みがあり、定員を超えています。お申し込みいただいた方には、抽選で100名の方に抽選で参加の機会を設けています。抽選の結果は、お申し込みいただいたメールアドレス宛にメールでお知らせいたします。ご了承ください。

**講師紹介**

大阪市生まれ。1996年12月、千葉大学大学院在学中に白血病と診断され、骨髄からの骨髄移植を受ける。その後日本でも骨髄バンクを作りたいと奔走し、1991年に日本骨髄バンク設立。現在取り組んでいるのは、骨髄バンクの敷設にとどまらず、「がんと生殖」「産産にW-FIT」「AYA世代のがん患者さんのための在宅医療支援」「男性トイレにこみ宿を」「医療界の多様性を求める」と、多様なテーマで活動を展開中。

2002年、NHK「プロジェクトX」に日本骨髄バンクの創設者の一人として出演。2008年、著書を原作としたドラマ「30万人からの奇跡」放映。現在は、全国骨髄バンク推進連絡協議会副会長に就任。

著書：  
『生きてるってシアワセ!』(スターツ出版)  
『骨の中の生命(いのち)―白血病を骨髄移植で治し、今日(いま)を生きる』(リヨン社)  
『白血病からの生命―「骨の中の生命」増補版』(リヨン社)

問合せ先：信州大学経済学部第2課 1st: 0263-37-9347  
信州大学電子書庫室(e-mail: pan@lib.kyushu-u.ac.jp)



### 長野教授 退職最終講義

令和5年3月末をもって、臨床検査技術学専攻 長野則之教授が退職されました。第221回医学セミナーとして2月17日（金）に長野先生最終講義「新天地、信州大学で駆け抜けた8年余－薬剤耐性菌の俯瞰的研究で見てきた景色－」が、地域保健推進センター 3階多目的講義室にて行われました。非常に精力的な研究・教育活動の一端をお話いただきました。当日はZoomによるオンライン同時配信も行われ、学内外の関係者の方々のご参加をいただきました。



▲長野教授 退職最終講義

### 奥野教授 退職最終講義

令和5年3月末をもって、看護学専攻 奥野ひろみ教授が退職されました。第222回医学セミナーとして3月3日（金）に奥野先生最終講義「公衆衛生看護活動の過去・現在・未来」が、地域保健推進センター 3階多目的講義室にて行われました。地域における保健師の歩みについてお話しいただきました。当日はZoomによるオンライン同時配信も行われ、学内外の関係者の方々のご参加をいただきました。



▲奥野教授 退職最終講義

### 卒業祝賀会・優秀学生表彰

令和4年3月21日(火)

感染症対策を設け、令和4年3月21日（火）キッセイ文化ホールにて信州大学松本地区卒業式が行われました。保健学科では同日午後保健学科中校舎二階大会議室にて、各専攻の成績優秀学生4名と大学院1名の表彰を、その後専攻別に4会場にて卒業証書の授与を行いました。表彰には各専攻主任が列席しました。



▲池上学科長および教員（後列）と、各専攻・大学院の成績優秀学生のみなさん（前列）  
写真前列右側から 大学院博士課程・須江慶太さん、大学院修士課程・坂口かなえさん、作業療法学専攻・高橋芳昌さん、理学療法学専攻・遠山沙紀さん、検査技術科学専攻・田邊平和さん、看護学専攻・田口真生さん、博士課程・林航さん

## 大学院修了者名簿

令和4年度の大学院修了者のうち医学系専攻保健学分野（博士課程）および医学系研究科保健学専攻（博士後期課程）修了者は8名で、学位論文は以下の通りでした。

- ・小林 純 さん  
Immature Platelet Fraction and its Kinetics in Neonates.  
(新生児における未成熟血小板分画とその動態)
- ・大塚 りさ さん  
The changes in frailty and death within six months of discharge in heart failure patients 80 years and older  
(80歳以上の心不全患者における退院後6カ月以内の虚弱の変化と死亡)
- ・須江 慶太 さん  
Preexisting brain lesions in patients with post stroke pusher behavior and their association with the recovery period: A one year retrospective cohort study in a rehabilitation setting  
(脳卒中患者の既往病変がpusher現象の回復過程に与える影響：回復期リハビリテーション病棟における1年間の後ろ向きコホート研究)
- ・西川 良太 さん  
The effects of visual cues from optical stimulation devices on gait disturbance in patients with Parkinson's disease  
(光刺激装置による視覚的キューがパーキンソン病患者の歩行障害に及ぼす影響について)
- ・小出 将太 さん  
Genomic Traits Associated with Virulence and Antimicrobial Resistance of Invasive Group B Streptococcus Isolates with Reduced Penicillin Susceptibility from Elderly Adults  
(高齢者より分離された侵襲性ペニシリン低感受性B群レンサ球菌の病原性と抗菌薬抵抗性に関するゲノム特性)
- ・馬場 孝浩 さん  
Validity of temporo-spatial characteristics of gait as an index for fall risk screening in community-dwelling older people  
(地域在住高齢者の転倒リスク・スクリーニングの指標としての歩行における時間的・空間的パラメータの妥当性)
- ・藤本 知宏 さん  
Relative and absolute reliability of gait variables obtained from gait analysis with trunk acceleration in community-dwelling individuals with chronic stroke: a pilot study.  
(地域在住の慢性期脳卒中患者の体幹加速度を用いた歩行分析から得られる歩行変数の相対・絶対信頼性：予備研究)
- ・小林 千世 さん  
Reminiscence Activates the Frontal Lobe and Ameliorates Negative Mood States in Cognitively Intact Older Adults  
(回想は認知機能が低下していない高齢者の前頭葉を活性化し、ネガティブな気分を改善する)

## 退職のご挨拶

### 退職のご挨拶

長野 則之

(検査技術科学専攻 病因・病態検査学領域)

私がここ信州松本の地に赴いてから早8年余が過ぎ、2023年3月31日をもって定年退職を迎えることとなりました。保健学科校舎を前に望む穂高連山、槍ヶ岳の遠景が美しく、冬の寒さの中で仰ぎ見る凜とした姿はことさら神々しいものでした。今は桜の芽吹きを待つ穏やかな季節を迎えようとしています。

私は平成26年9月に病因・病態検査学領域の教授職を拝命しました。着任当初は右も左もわからない状態からのスタートでしたが、32年に及ぶ医療機関での微生物検査や研究で培った知識や経験を通して臨床微生物学の重要性と面白さを伝えることを常に心掛けて参りました。多様且つ複雑に進化し続ける微生物とそれらによって引き起こされる感染症と臨床の第一線で対峙する検査技師にとっては重要な事象、既知の常識から逸脱している事象を見逃さないプロフェッショナルとしての知識、技術を習得し、更新し続けることが重要です。日々の検査の中で遭遇する様々な気づきに的確に対応できるよう自己研鑽に励んで欲しいと願っています。

在職中には修士課程17名(社会人3名)、博士課程4名(社会人3名)の大学院生を迎え入れ、現在世界的な脅威となっている薬剤耐性菌の研究や新生児・高齢者重篤感染症の重要な原因菌であるB群レンサ球菌の研究をはじめ多くの研究成果を世界に発信していくことができました。大学での研究では、これ

までヒト臨床という次元のみで捉えてきた事象を、ヒト-動物-環境インターフェイスでの俯瞰的知見を加えた多角的な視野で評価することができ、たいへん意義深い時間であったと思います。また、共に研究を進めてきた大学院生達の努力がこれからの彼らの未来に役立つことを願ってやみません。

ここ数年は大学教育において様々な変化への対応が求められました。COVID-19の流行に伴って、講義の形態も対面からオンラインへと急激に変化し、さらには多くの学内行事が中止になるなど非常に混乱した時期でもありました。私が最初で最後に学年担任を受け持った学部生も卒業式が中止になり、社会へ送り出す言葉もかけられずそのまま卒業証書だけが郵送されるという事態に陥り今でも心残りとなっています。また、臨床検査学教育においては、指定校と承認校の教育カリキュラムが統一化され、さらにタスク・シフト/シェアに対する教育も新たに加わるという、目まぐるしい変化が続いています。このような学部教育への負担が増える中、教職員の先生方もその対応におられる日々を過ごされています。さらに臨地実習施設においては、各施設1名以上の臨地実習指導者講習会修了者の配置が必要とされ、施設へご負担をおかけすることとなりました。これに伴い医療施設と教育施設の連携がこれまで以上に必要となります。このように臨床検査学教育は変化の時代を迎えておりますが、教職員の先生方、在校生、卒業生、修了生の皆様および保健学科の益々のご発展をお祈り申し上げます。

### ご挨拶

奥野 ひろみ

(看護学専攻 広域看護学領域 公衆衛生看護)

信州大学に15年間勤務いたし、このたび定年退職となりました。同窓生の皆様、特に県及び市町村勤務の保健師の皆様には大変お世話になり、感謝申し上げます。学生実習、看護協会主催の研修会、大学での研修会など多くの場面でご対応をいただきました。

地域社会では少子高齢化が進み保健活動も大きく変化しています。健康課題を抱える地域住民の状況も数量データで見える化が進んでいます。行政単位で抱える課題も異なり、保健師の問題解決能力の重要性がより一層増していく時代と考えます。今後も同窓生の皆さんと信州大学が連携しこれらの課題に取り組むことができることを願います。皆様の今後のご活躍を期待しております。ありがとうございました。

## 信州大学医学部保健学科での4年間 野島 一平

(理学療法学専攻 応用理学療法学領域)

この度、退職にあたり寄稿の依頼を頂きましたので筆を取らせていただきます。私は2019年から2023年までの4年間、信州大学医学部保健学科の理学療法学専攻の准教授として教育および研究に携わらせていただきました。ご存知の通り、2020年初頭より新型コロナウイルスのパンデミックによる影響が全世界に波及し、我々の生活は大きな制限を受けました。大学教育も例外ではなく、授業のオンライン・オンデマンド化、実習の中止または学内で代替授業、オンラインでの実習地訪問など、多くの変革を強いられ、その対応に奔走した3年間であったと思います。一方で、新型コロナウイルスを契機とする社会の変化により、効率化・デジタル化が遅れていた本邦の教育改革が否応なく進む機会にもなったものと考えます。そして、効率的になった我々の生活において、人との交流の重要性がより強く認識された3年間であったようにも思います。私自身、長野県に縁も所縁もなく、仕事を通じて実習地の先生や卒業生の先生と交流したいと思っていました。しかし、コロナにより交流の機会が訪れることなく松本を去ることになり、非常に寂しく思っています。

大学の教育に関しては、多くの学生が大学院に進

学してくれました。私は、大学院のアクティビティが高くなれば学部学科が活気付き、学科の教育に良い影響があると考えています。そういった意味では、少しだけ貢献できたものと密かに自負しております。ただ、国際化の推進や研究体制の構築および事業化など、道半ばであったことも多く、信州を去ることに心残りもありました。

さて、信州大学を退職して現在は何をしているかと言いますと、名古屋市立大学においてリハビリテーション学科の設置準備をしております。信州大学に来させていただく前は名古屋大学にいたので、名古屋に戻った形となります（実は名古屋にも縁も所縁もございません）。名古屋は地理的に非常に便利ですが、夏の猛烈な暑さと体に纏わりつく湿気が特徴で、涼しい松本の気候が懐かしく羨ましく思い出されます。

最後に、4年間という短い期間でしたが、専攻の先生には良くしていただきました。特に、木村先生と百瀬先生には、言いたい事をオブラートに包まず言ってしまう私に対しても寛容に対処していただき、感謝しております。今後は、信州大学に負けないうなりリハビリテーション学科を作っていくことが信州大学への恩返しであり、魅力的な学科を作っていくと考えています。今後の信州大学および医学部保健学科同窓会の発展を祈念しております。



## たくさんのご縁に感謝

杉本 穂高

(理学療法学専攻 基礎理学療法学領域)

保健学科同窓生および父兄の皆様、教職員の皆様、2023年3月31日をもって退職しました医学部保健学科理学療法学専攻の杉本穂高です。2019年4月に着任し4年間、皆様には大変お世話になりました。



私は学部生として4年間、大学院生として2年間、附属病院リハビリテーション部に籍を置きながらの教員生活が1年半、助教に着任して4年間とさまざまな立場ではありますが、11年間と半年、人生の3分の1を信州大学で過ごしてまいりました。これまで教職員の皆様、同窓生の皆様、多くの方々に出会い、たくさんのご縁に恵まれ、私は教員として、理学療法士として、トレーナーとして、多くの経験を得ることができました。本当に感謝しております。

私の教員生活は、学部生、大学院修士の時に大変お世話になった百瀬公人教授にお声がけいただき、2017年10月から附属病院リハビリテーション部所属という形で始まりました。教育は臨床の現場でも治療の一環として患者教育という形で経験がありましたが、大学では1対多数であり、はじめは思うようにいきませんでした。初めての講義の気合と緊張と大量の授業資料による脳と発声器官の疲労は今でも忘れられません。それから授業を重ねていく中で、授業中の学生からの反応や授業外での学生とのコミュニケーションによって自身に足りないものを知り、毎年授業資料の修正を加えブラッシュアップしてまいりました。その結果、毎年試験問題は一から作り直すので、私の試験は過去問がまったく役に立たないという事態になり、在学生、最近の卒業生は苦勞したと思います。ただその苦勞に対する努力が実を結ぶことを願うばかりです。

附属病院では、理学療法士として運動器疾患を中心に診療に参加し、天正先生、下平先生をはじめ、整形外科下肢班の医師の皆様、整形外科病棟の看護師の皆様、運動器班のリハビリテーション部スタッフの皆様には大変お世話になりました。2年後期評価法実習、3年後期治療法実習の時期では、学生とともに診療に参加し、多くの患者の日常生活復帰やスポーツ復帰に向けて理学療法を行いました。着任時期が理学療法学生の実習形式が診療参加型臨床実習へパラダイムシフトが起きている時期でした。そのため百瀬教授にご指導を受けながら実習の指導方法について試行錯誤を重ね、学生にはできるだけ多くの患者に関わり、実際に理学療法を経験できるよう実習指導に努めてきました。自分が実施してきた指導方法がすべて正解ではありませんが、学生の皆さんが将来に臨床の現場で実施する理学療法学生へのより良い実習指導につながってくれば幸いです。

トレーナーとしてもたくさんのご縁のおかげで多くの経験を得ることができました。特に木村貞治教授との出会いは、トレーナーの活動をしていく中で大きな影響を与えてくださいました。水泳競技のトレーナー活動を始めるきっかけでもあります。ここ数年はコロナ禍でトレーナーは活動しにくい時期ありましたが、木村教授のご指導ご鞭撻のおかげでコロナ禍でも感染対策を行いながら希望する学生といっしょにスポーツ現場での活動する機会を作ることができ、私も学生とともに学び、多くの経験を得ることができたと思います。本当に感謝しております。

2023年4月からは長野県内にある長野保健医療大学で教員をさせていただくことになりました。信州大学で得た経験を次の環境でも活かし、今後の医療を担う人材の育成に貢献できるよう努めて参ります。最後になりましたが、4年間、誠にありがとうございました。この場を借りて厚く御礼を申し上げますとともに、今後も引き続きご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

## 卒業生の声

### 近況報告

竹田 汐里／看護学専攻 16 期生

早いもので助産師として働き始めてから1年が経ちました。皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年度末に先生方と助産師コース保健学科16期生とzoomでの近況報告会で、皆様の元気なお姿を拝見できたことが記憶に新しいです。

私は現在、地元の愛知県内にある総合周産期母子医療センターで勤務しています。昨年度は婦人科、産科の病棟業務から外来まで一通り経験し、今年からは分娩業務にも携わる予定で身が一層引き締まる思いです。昨年度は入職したてということもあり、業務を覚えることに日々精一杯になっていましたが、最近は僅かながらゆとりを持ち、勤務できるようになったと感じています。その反面、先輩方と比べると経験はもちろんのこと知識の不足を思い知り、学生時代に「看護師は生涯学習」と言われていたのを肌身で感じるようになりました。そのため、最近は自己学習に加えて興味のある研修に参加したりと少しずつではありますが、自己研鑽に励んでいます。

今後も引き続き研鑽に励むとともに、目の前の患者さんと向き合いながら助産師として、人としてより一層成長していけたらと思います。

新型コロナウイルスが5類感染症となり、コロナ禍の収束が見えてきた反面、まだまだ気が抜けない時期でもあるかと思っておりますので、皆様引き続きお身体をご自愛ください。



### 社会人半年目のご報告

須江 翼／検査技術科学専攻 15 期生

昨年度に信州大学大学院を卒業後、生まれてから住み続けた長野県を離れ今年度よりシスメックス株式会社の新入社員として社会人生活が始まりました。

入社当初は新生活への期待と社会人としての責任感に対する不安が混在した感情を持ちつつ、1か月半にわたる研修生活を送りました。研修中は同期の仲間たちと共同生活を送り、休日には旅行や遊びへ行くなど大変充実した日々を過ごすことができました。

現在、私は長野と新潟を含む北関東エリアの施設を担当する学術サポート職として勤務しております。大学で学んだ臨床検査の知識を活かすことができる職種への配属となりましたが、膨大な製品知識や学術知識の習得に苦労しているのが現状です。先輩に同行しつつ、徐々に経験を積みながら業務を覚えている途中ではありますが、先日になり初めて自分が主担当としてお客様対応を行う機会を得ました。事前準備を十分に行い万全の状態で臨んだつもりでしたが、先輩に度々フォローしていただく結果となり、自身の力不足に悔しさを感じる現場デビューとなりました。しかし、目標と現在の実力が明確となったことはポジティブに捉え、改善点を洗い出して今後の成長につなげていく所存です。

このように新社会人として日々奮闘しておりますが、以前より憧れていた仕事ができることへの喜びを感じながら業務に取り組んでいます。いずれは信大病院にも訪問する機会があると思っておりますので、その際はどうぞよろしくお願いたします。



▲研修施設にて撮影

## 近況報告

田島 大地／理学療法学専攻 2 期生

現在、私は37歳で3人の男の子の父親をしています。家族との時間を大切にし子供たちが笑顔で成長することをサポートすることが今の最優先です。子供3人は同じように育てているつもりですが、それぞれ性格も特技も異なり三者三様の成長過程をたどっています。それを間近で見守るのが何よりも楽しいです。固定概念にとらわれない率直な感性や満面の笑顔は子供が持つ最大の魅力です。その姿を見てパワーをもらいながら日々を過ごしています。子供と共に過ごす時間を少しでも長く確保できるような生活を送りたいと思います。

仕事面では理学療法士として15年間病院で勤務した後、37歳でデイサービス事業を開業しました。“人生を楽しむ”ことが事業のテーマです。病院で培った技術や知識を生かし身体面・認知面・精神面の健康を提供するだけでなく、人生を楽しむことを見据えて事業を展開します。

“人生を楽しむ”ことは共に働くスタッフにも当てはまります。医療・介護スタッフの中には激務により疲労が溜まっている方や体調を崩す方がいらっしゃいます。このように自身を犠牲にして働くことがないよう、スタッフの健康と人生を楽しむこともサポートしていきます。

周囲にこのような話をした際、「そんなに甘くはない」「茨の道を行くんだね」など厳しい言葉をいただきました。実際にこれまでと同じようなことを行っているとは実現は難しいと思います。しかし、現在は様々なデジタル技術が活用できますし多くの情報が得られるようになりました。現場にデジタル技術とビジネスモデルを取り込み、理想を現実にできるよう奮闘していきます。



## みんなが自分らしく過ごせるために

生田 真衣／作業療法学専攻 5 期生

みなさん、こんにちは。作業療法学専攻5期生の生田です。私が信大を卒業した12年前の3月は、ちょうど東日本大震災が起きた時でした。近年、新型コロナの影響で穏やかではない日々でしたが、当時も心もとなく過ごしていたことを思い出します。

私は卒業後、精神科作業療法の道へと進みました。地元愛知県の病院に就職し、精神科医療に携わる中で集団の作業療法よりも、一人ひとりの対象者に時間をかけて関われる環境に身を置きたいと思い、4年目から訪問看護ステーションでの勤務を始めました。紆余曲折ありながら、現在は横浜に拠点を移しており、同じ訪問支援でも地域の違いを感じながら働いています。昨今コロナ禍も影響し精神疾患にかかる人が増えている印象ですが、それと同時に子どもたちの引きこもりへの支援依頼もとて多くなっています。重要な社会的課題の中で私に出来ることは何なのかと自問自答する日常です。プライベートでは趣味から派生して、ヨガのインストラクターを取得しました。ヨガポーズをとることだけでなくヨガ哲学に触れたことで、私自身の考えや捉え方が変化してきた感覚があり、日々のちょっとした良かったことに意識が向くようになった気がします。あとは梅仕事にはまって、毎年とても酸っぱい梅干しを作っています。これからは現行の医療・介護制度上の動きだけではなく幅広い視野を持ってさらに学びを深め、新たな活動の場を作っていきたいと考えています。



# 「信州大学医学部保健学科同窓会若手優秀論文賞」 創設のお知らせ

信州大学医学部保健学科・保健学科同窓会では、若手研究者による優れた学術論文を表彰し、その栄誉を公表して受賞者及びその関係者に対して、さらなる研究活動を奨励することを目的として、「信州大学医学部保健学科同窓会若手優秀論文賞」を創設し、令和5年度より募集いたします。この同窓会だよりに掲載される応募要項をご覧ください、ご応募くださいますようお願い申し上げます。また、応募要項と審査申請書は保健学科同窓会のホームページにも掲載される予定です。

信州大学医学部保健学科同窓会の益々のご発展を祈念いたしております。

2023年9月11日

信州大学医学部保健学科長・保健学科同窓会名誉会長

伊澤 淳

## 令和5年度信州大学医学部保健学科同窓会若手優秀論文賞への応募について

信州大学医学部保健学科と保健学科同窓会は、令和5年度信州大学医学部保健学科同窓会若手優秀論文賞を募集しますので、下記の応募要項に従って、ご応募くださいますようご案内申し上げます。

### 【応募要項】

#### 1. 受賞候補論文と受賞候補者の要件

令和4年1月1日から12月31日に学術専門雑誌に掲載が確定した論文のうち、保健学科の教員、学生、卒後同窓会員が筆頭著者である論文を審査対象とします。申請時点ですでに表彰・受賞されている論文は審査対象としません。受賞候補者は、令和5年4月1日時点の年齢が45歳未満の者となります。

#### 2. 申請方法

自薦または他薦により、本賞の審査申請書（別紙 様式1）と論文別刷10部（コピーでも可）を、令和6年1月4日までに以下宛に郵送または直接提出してください。

宛先：信州大学医学部保健学科 学科長  
伊澤 淳  
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1  
信州大学医学部保健学科

#### 3. 受賞者

選出された論文の筆頭著者を本賞の受賞者とし、原則として4専攻から各1名が選出されます。

#### 4. 審査基準

次の(1)～(3)の要素を総合して評定します。

- (1) 研究の新規性・独自性・妥当性
- (2) 研究の目的、方法、結果の妥当性
- (3) 研究成果の波及効果・社会的意義

#### 5. 表彰の時期・方法

令和6年3月の保健学科卒業祝賀会において表彰状および記念品を授与します。

#### 6. 受賞者の公表

保健学科および保健学科同窓会のホームページにおいて、受賞者の氏名、論文題目、論文の概要等を公表します。

#### 7. 問い合わせ先

信州大学医学部保健学科同窓会 事務局  
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1  
信州大学医学部保健学科内  
TEL：0263-37-3510  
E-mail：mtnsopt@shinshu-u.ac.jp

## 【信州大学医学部保健学科同窓会若手優秀論文賞 規定】

### 1. 名称

この賞を信州大学医学部保健学科同窓会若手優秀論文賞（以下本賞）と称する。

### 2. 趣旨

信州大学医学部保健学科及び保健学科同窓会は、若手研究者による優れた学術論文を表彰し、その栄誉を公表して受賞者及びその関係者に対して、更なる研究活動を奨励することを目的として本賞を定める。

### 3. 受賞候補論文及び受賞候補者の要件

本賞は年度賞とし、選考年度は毎年前年1月1日から12月31日に終わるものとする。受賞候補論文は、前年度に学術専門雑誌に掲載が確定した論文のうち、保健学科の教員、学生、卒後同窓会員が筆頭著者である論文を審査対象とする。申請時点ですでに表彰・受賞歴のある論文は審査対象としない。

受賞候補者は、当該年度の4月1日時点の年齢が45歳未満の者とする。

### 4. 受賞者

選出された論文の筆頭著者を本賞の受賞者とし、原則として各専攻から1名を選出するものとする。

### 5. 審査方法

自薦または他薦により、本賞の審査申請書（別紙 様式1）と論文別刷10部（コピーでも可）を、年始の始業日までに保健学科長に提出する。選考委員\*が1月末までに別に定める方法により書類審査を実施し、2月の保健学科拡大補佐会議において選出する。

\*選考委員は、保健学科同窓会長、保健学科同窓会副会長、保健学科拡大補佐会議メンバーとする。なお、選考委員が申請論文の共著者である場合は、当該論文の審査を担当しない。

### 6. 表彰の時期・方法

3月の卒業祝賀会において表彰状及び記念品を授与することにより行う。

### 7. 受賞者の公表

保健学科及び保健学科同窓会のホームページにおいて、受賞者の氏名、論文題目、論文の概要等を公表するものとする。

### 8. 受賞の取り消し

本賞の受賞後において次のような事実が判明した場合は、選考委員による決議に基づいて受賞の取り消しを行い、保健学科長と保健学科同窓会長は表彰状と記念品の返納を命じることができる。その場合は保健学科及び保健学科同窓会のホームページにおいて、取り消しの理由を明示しなければならない。

- (1) 受賞論文及び関連する研究において研究不正が明らかとなった場合
- (2) 信州大学研究活動上の行動規範を著しく逸脱することが明らかとなった場合
- (3) その他、受賞者の行為が研究倫理を著しく損なう場合

### 9. その他

本賞の受賞者が決定しない場合は、その年度の受賞は行わないこととする。

本規定は保健学科拡大補佐会議ならびに保健学科同窓会幹事会の合議により変更することができるものとする。

### 附則

本規定は2023年9月6日より施行する。

(2023年9月6日)

保健学科同窓会若手優秀論文賞 審査申請書 (様式1)

筆頭著者 氏名	
生年月日	年 月 日 申請年度4月1日時点の年齢： 歳
推薦者 氏名	(他薦の場合は記入してください)
申請論文 著者名, 題名, 雑誌名, 出版年月日, 巻数, 号数, ページ	
申請日	年 月 日
申請者の連絡先	郵送物の送付先：〒  電話番号： メールアドレス：
申請論文の 表彰・受賞歴*	
論文の概要	
推薦の理由	(他薦の場合は記入してください)

\*表彰・受賞歴のある場合、対象とならない場合があります。  
記入枠は適宜拡大して構いませんが2ページ以内にまとめてください。

■申請書 (Wordフォーマット) は、同窓会ホームページからダウンロードできます。  
ホームページURL ▶ <https://www.mhoken.jp/> (または右のQR)



# 総会記録

## 2023年度 信州大学医学部 保健学科同窓会総会 議事録

日時：2023年6月24日(土曜日) 15:15から16:25

場所：信州大学経法学部第二講義室

1. 開会宣言(奥村伸生幹事)
2. 川上由行保健学科同窓会長挨拶
3. 保健学科同窓会名誉会長(伊澤淳保健学科長)挨拶
4. 議長選出  
アルプス会の久保敏子および召田ひろみ氏が選出された。
5. 2022年度事業報告および決算報告  
下里誠二幹事より2022年度事業報告が、中込さと子幹事より2022年度決算報告がされた。
6. 2022年度特別会計報告  
中込さと子幹事より特別会計報告がなされた。
7. 2022年度会計監査報告  
西澤公美監事より会計監査報告がなされた。  
以上に質疑はなく、賛成多数により2022年度事業報告、2022年度会計報告は承認された。
8. 2023年度事業計画(案)および予算(案)  
下里誠二幹事より2023年度事業計画(案)について、中込さと子幹事より会費納入状況について報告がなされたのち、2023年度予算(案)について説明があった。  
特に質疑はなく、採決の結果賛成多数で承認された。
9. 副会長複数制とそれに伴う会則改正について  
川上会長より、副会長を現行の1名から2名にする案が提案され、それに伴い、会則の改正が提案された。  
質疑なく、採決の結果承認された。
10. 保健学科同窓会若手優秀研究賞の提案  
伊澤学科長から「保健学科同窓会若手優秀研究賞(仮)」の創設について、提案がなされた。  
提案に対して、総会后さらに修正をするものか、本提案の開始時期はいつからか、応募対象範囲や内容の検討が必要、といった質問意見があった。これに対して、総会での意見を元に、保健学科拡大補佐会議で議論をすること、各専攻を通じて意見を募集し、改善を図ってゆきたいとの回答があった。  
今後検討を重ねながら、提案に沿って進めていくこととして、賛成多数で承認された。
11. 役員改正について  
奥村伸生幹事より、任期満了に伴う役員改正について説明がなされ、会則により、会長選出について説明がなされた。立候補はなく、川上由行現会長が推薦された。賛成多数で再任が承認された。  
川上由行会長から、副会長には、萩原綾乃氏(州嶺会)、奥村伸生幹事が指名され、挨拶があった。
12. 議長解任
13. 閉会宣言(奥村伸夫幹事)

以上

# 2022年度事業報告

## 1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進  
(シンガポールのシンガポール総合病院、ネパールのスタディツアーの海外研修プログラム、海外プログラム学生受け入れへの支援)  
新型コロナウイルスの影響により中止
- 3) 特別講演の開催  
日 時：6月25日(土) 13:00-15:00  
演 題：「悲しみとともにどう生きるか」  
講 師：入江 杏 さん  
オンライン開催
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
- 5) 卒業式・学位記授与式  
・ 祝賀会補助（新型コロナウイルス感染予防のため中止）  
・ 卒業記念品の贈呈（集合写真）  
・ 竹内松次郎賞記念楯（優秀学生表彰）  
令和4年度は医学部保健学科および大学院医学系／総合医理工学研究科卒業証書および学位授与式として代表者のみが参加し、保健学科会議室で行われ、Zoomにて配信された。
- 6) 入試広報活動補助  
・ オープンキャンパス補助  
・ 各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 7) 学生課外活動支援  
・ 新入生合宿研修補助（専攻ごとの新入生歓迎交流会イベントに補助）  
・ 学生への課外活動支援
- 8) 学習環境整備  
・ 学生支援  
看護学専攻 深部静脈血栓予防フットポンプ ケンドールSCD700、テルフュージョン シリンジポンプ、高齢者体験セット、肘拘束具、1歳児シミュレーション人形、乳児用・小児用ベッド、経管栄養シミュレーター（経鼻・経口・胃瘻）、VRゴーグルなど

## 2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻：アルプス会・桐の木会
- 2) 検査技術科学専攻：臨嶺会
- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻：州嶺会

## 3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第20号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催
  - ①2022年度総会の開催  
新型コロナウイルス感染症対策のため、理事会のメール審議による書面評決をもって承認とした
  - ②理事会の開催  
2022年6月10日(金)～6月16日(木)の期間でメール審議
  - ③幹事会の開催  
・ 2023年3月15日(水)17:30～19:30  
Zoomによる遠隔会議  
・ 2023年5月24日(水)17:30から
- 4) 同窓会事務局の運営（令和5年3月に保健学科同窓会室を疾患予防医科学系専攻棟裏から、保健学科中校舎2階へ移転を完了した）
- 5) 信州大学同窓会連合会との連携  
信州大学同窓会連合会関係：  
・ 2022年7月16日(土)第36回信州大学同窓会連合会役員会／旭会館3階大会議室（川上会長）  
・ 2023年2月18日(土)第37回信州大学同窓会連合会役員会旭会館3F大会議室  
信州大学校友会関係：  
・ 2022年7月6日(水)～7月15日(金)メール審議「第10回信州大学サポーターズクラブ理事会」(川上会長)
- 6) 信州医学振興会支援
- 7) 特別会員の最終講義へのお祝い  
「奥野ひろみ教授、長野則之教授」

# 2023年度事業計画

## 1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進（シンガポールのシンガポール総合病院、ネパールスタディツアーのプログラムについては中止、招聘講演、海外研修受け入れへの支援）
- 3) 特別講演の開催  
日 時：2023年6月24日（土）13:00 - 15:00  
演 題：生きてるってシアワセ！  
講 師：全国骨髄バンク推進連絡協議会 副会長 大谷貴子さん  
場 所：経法学部第2講義室
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
- 5) 卒業式・学位記授与式  
・祝賀会補助  
・卒業記念品の贈呈（集合写真）  
・竹内松次郎賞記念楯（優秀学生表彰）
- 6) 入試広報活動補助  
・オープンキャンパス補助  
・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 7) 学生課外活動支援  
・新入生合宿研修補助（専攻ごとの新入生歓迎イベントに対して補助）  
・学生への活動支援

## 8) 学習環境整備

・学生支援：検査技術科学専攻

## 2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻：アルプス会・桐の木会
- 2) 検査技術科学専攻：臨嶺会
- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻：州嶺会

## 3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第21号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催

### ① 2023年度総会

日 時：2023年6月24日（土）15:00 - 16:00

場 所：経法学部第2講義室

ティーパーティー：6月24日16:00から 旭会館2階

ライジング・サン

### ② 理事会の開催：年1回（5～6月）

### ③ 幹事会の開催

- 4) 同窓会事務局の運営
- 5) 信州大学同窓会連合会との連携
- 6) 信州医学振興会支援
- 7) 特別会員最終講義のお祝い

## 同窓会役員

名誉会長：伊澤 淳（医学部保健学科）

会 長：川上 由行（医学部保健学科）

副会長：奥村 伸生（医学部附属病院）

萩原 綾乃（医学部附属病院）

理 事：

看護学専攻8名

関 浩美（医学部附属病院）

小澤 悦子（医学部附属病院）

松本 恵美（医学部附属病院）

白濱 滯（医学部附属病院）

青柳 陽子（医学部附属病院）

中込さと子（信州大学医学部保健学科）

水藤 愛子（看護学専攻学生）

松永 朱莉（看護学専攻学生）

検査技術科学専攻4名

藤澤千鶴華（検査技術科学専攻学生）

赤羽 貴行（安曇野赤十字病院）

平 千明（医学部保健学科）

新井 慎平（医学部保健学科）

理学療法学専攻2名

高嶋 斗夢（理学療法学専攻学生）

杉田 勇（諏訪中央病院）

作業療法学専攻2名

小林 琴美（作業療法学専攻学生）

井戸 芳和（医学部附属病院）

大学院（前期）1名

明石 悠斗（博士前期課程院生）

大学院（後期）1名

古川 智巳（博士後期課程院生）

幹 事：樋口由美子（医学部保健学科）

山内 一由（医学部保健学科）

中込さと子（医学部保健学科）

下里 誠二（医学部保健学科）

柳澤 節子（長野県看護協会）

百瀬 公人（医学部保健学科）

横川 吉晴（医学部保健学科）

務台 均（医学部保健学科）

監 事：重藤 聖子（医学部保健学科）

鮫島 敦子（医学部保健学科）

事務局：中山 秀子

## 編・集・後・記

この記事を書いているのは9月中旬ですが、ようやく日中の松本の最高気温が30度を超える程度になり、多少過ごしやすく感じていました。今年は酷暑（きびしい暑さ）というのか、東京では55日以上連続真夏日が続きました。梅雨から夏への移り変わりが早く、そして長く、秋は短くなり、冬は降雪量が少ないものの豪雨のようにまとまって降っていると感じています。日本の季節が四季ではなく、二季へと変わってゆくような感覚です。（編集人 Y）